

そだちのねっこ

～乳幼児期の遊びより～



教育センター所報
2月号掲載

【「先生のまねっこしょ!」「〇〇もできるもん!」～『やってみたい!』が学びの芽～】

1月9日、2歳児の子どもたちが遊ぶ様子を見学してきました。

保育室や担任の先生、クラスの友だちにも慣れ、『自分でできる!』嬉しさを味わっている姿がたくさん見られました。

担任の先生が、小道具のマイクを使って、「おなまえは?」と聞かれていました。マイクを向けられると「〇〇です!」と少し照れながら言うことができると、とても嬉しそうで、満足そうな表情をしていました。また、先生と同じマイクを持ち、先生役をすることを楽しんでいる子どももいました。



「お外へ遊びに行くよ～」という言葉に、ベストや帽子、靴下など園庭へ行くための準備が始まりました。すぐに「やって～」と言うのではなく、やってみようとする子どもたちの姿が印象的でした。担任の先生は、せかすことなく、「できそう?」「少し手伝おうか?」と子どもの様子に応じて声をかけられていました。全てやってあげるのではなく、『自分でできた!』が味わえるようにそっと支えられていることがわかりました。



玄関で靴を履こうとして、無言で靴下を指さして訴えている子どもがいました。「どうしたの?」と聞くと、やはり靴下を指さして困り顔をします。「あっ、かかとの部分が上になってるね～」「自分で履いたんだ!」「気持ち悪いことに気づいたんだね」と、状況と気持ちを共有してから、靴下の履き替えを手伝いました。その後、自分で靴を履き、元気よく園庭へ行きました。

園庭では、三輪車や砂場遊び、ボール遊び、ままごと遊びなど、自分のしたいことを見つけて遊び始めていました。先生の真似をして、スコップで線路をひき、「できた!」と喜んだり、偶然にもスコップに砂が入って「はいった!」と驚いたりしていました。また、ままごとコーナーでは、「お芋を混ぜてるよ」「先生も手伝って!」「こうする



のよ」と、自分の遊んでいることを伝えようとする姿も見られました。土山をおうちに見立てて遊んでいる子どもに、担任の先生が「ここは何ですか?」ときくと、「こちらはベットです」「こちらはお風呂です」と嬉しそうに答え、「入ってもいいですか?」の問いには、「いいですよ」「ちょっと待ってください。お湯をいれますね」など、言葉のやりとりも楽しんでいました。



大好きな友だちもでき、「今日のお迎えはパパ?」「そうなの?」「これ、貸してあげる」「あっ、鼻水出てるよ」など、友だちとお喋りしたり、傍にいたりすることに居心地のよさを感じている子どももいました。

月齢差はありますが、2歳児の子どもたちは語彙数が増加し、2語文、3語文でやりとりもできるようになり、それがまた楽しくなる時期でもあります。保育者は共感だけでなく、質問したり、言い換えたりしながら、子どもの言葉が豊かになることを意識してかかわっています。

さらに、やりたがる、しゃべりたがる、遊びたがる、同じことをしたがるなど、いろんな『こと・もの・ひと』への興味・関

心が強くなり、たくさんの経験を通して学んでいきます。

「自分の名前が言えた」「帽子が被れた」「靴が履けた」や、「スコップで砂がすくえた」「ボールを蹴られた」「穴に入れた」「〇〇を見つけた」など、『できた!』が嬉しい瞬間を生活や遊びの中でたくさん経験しています。そのためにも、「先生、みて!」と、大人に伝えたいくなるような豊かな体験ができるように遊び環境を考えていくことも保育者の使命であると感じました。

<シンキングタイム>

保育室で、ヨーグルトのカップを積み重ねて遊ぶ子どもがいました。言葉は発していませんが、『できた!すごい!』と言わんばかりの表情をしています。みなさんなら、この子どもにどんな言葉をかけますか?また、どんな援助をしますか?なぜ、その言葉かけや援助をしようと思いましたか?

正解は一つではありません。みなさんの言葉かけやかかわりによって、子どもがさらに遊びを楽しもうと何かを伝えてきたり、「もう一回やりたい!」につながったりして、なんらかの学びが芽生えた時こそが正解かもしれません。

